

京口門だより No. 5

春のおとずれを少しずつ感じられるようになりました。3月3日は桃の節句です。いよいよ春めいてきます。桜に先がけて桃の花が咲いてきます。今年は気候が不順で桃の花もとまどいつつ咲いているようです。桃といってもいろいろな種類があるようです。夏に食べる桃の実には白桃という系列の桃のようで、品種改良をされた岡山県の白桃は有名です。

じつは漢方薬では桃をよく使い、薬としては果実ではなく、桃仁といって桃の種子の中の仁を用います。いわゆる食用の桃の実の種でなく、野生種にちかい果肉の薄い桃(①)の種子を使います。果肉が薄いほうが成分が種子により多く存在するようです。またヤマモモ(楊梅)(②)も樹の皮を薬として用います。



①

②

桃仁(とうにん)は血のとどこおりをよく流れるようにする働きや、腸の働きを良くして便通を快通させる働きもあります。桃仁は漢方で重要な瘀血(おけつ)を治す薬とされています。瘀血とは血がとどこおることと、たとえば打撲や外傷によって内出血して紫色になったり、腫れて痛んだりする場合に瘀血があると考えます。体表だけでなく内臓にも血のとどこおりが起こります。女性の生理不順や月経困難症も瘀血のひとつと考えます。子宮内膜症などで激しい生理痛を起してくるのも瘀血を治す薬を用いて治療します。子宮筋腫なども瘀血の一種として治療します。また脚の静脈瘤なども血流のうっ滞を起しますから、瘀血として治療します。皮膚病でも紫色に変色したり、赤黒くなってくると瘀血があるとみて治療をします。このように私たちの病気の背景に瘀血があると漢方では考えます。それには桃仁、牡丹皮(ボタンの根)、紅花(ベニバナ)、芍薬、川芎などの薬を組み合わせ用います。

いっぽう、ヤマモモの樹の皮(楊梅皮)は血行をよくし、炎症をおさえる働きがあり、打ち身やねん挫の湿布薬として、キハダ(黄柏)や山椒とともに用います。

ところで、当診療所では「漢方京口門診療所」としてホームページを作っていて、この京口門だよりも毎号載せています。そちらもご覧ください。